

平成29年 **1 1**月の大阪森林便り



今月の木の話

ヒノキの中でずばぬけて優れている木曽ヒノキ

- ・木曽ヒノキは材質、長さ、太さにおいて優れています。
- ・他のヒノキと比べて材質が軟らかいため、柱などの構造材としてよりも一般に高級な造作材として知られていますが、木目が通っていて、色がきれいで、香りがよく、加工しやすいという特長を持っています。
- ・長い年月をかけて育ってきた木曽ヒノキは、目が細かくて材質が均一で緻密です。

一般的に木材は、紫外線を吸収するので目に優しいという長所を持っていますが、紫外線を吸収するために木材の色は刻々と変化していきます。

- ・寿司屋さんのカウンターはたいてい長野県産木曽ヒノキ（尾州ヒノキ）を使っていますが、色も変わらないし汚れもつかず、水拭きするといつまでも黒ずまず白いという特徴を持っています。

（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋）



南洋材合板、納期に遅れ マレーシア最大手 原木伐採減少で

住宅工事遅延や値上がりも

- ・マレーシア最大の合板メーカー、シンヤングループはコンクリート型枠に使う南洋材合板の納期が約2カ月遅れると日本の商社に伝えました。環境規制による原木の伐採減少が理由で、日本への到着は12月までずれ込む見通しです。
- ・到着が遅れるのは9～10月積みで成約した南洋材合板の全量。原木の不足で7～8月の成約分も契約の約半分しか到着していません。
- ・マレーシア産合板の対日価格は5か月連続で上昇し、この間の上げ幅は2割強に達します。

（2017年10月3日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

米国産丸太、10年ぶり高値 国内価格 カナダ山火事など影響

住宅コスト増加要因に

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が3か月連続で上昇。10月積みは年初に比べ7%高くなっています。カナダ整備で起きた山火事の余波で米国産丸太に需要が集中。米国の丸太や製材品需要も旺盛で値上がり基調が続く見通し。
 - ・米松丸太の10月積み価格は9月積みに比べ2%上昇。3年7か月ぶりの高値水準。
 - ・米松小径木も9月積みに比べ2%高くなっています。
 - ・戸建て住宅の建築コストに占める木材の割合は1割程度。
- (2017年10月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

南洋材、環境規制で輸入減 懸念 植林事業で技術支援を

- ・熱帯林木材（南洋材）の主産地、マレーシア東部サラワク州での環境規制で、南洋材の原木や合板の輸入減が現実味を帯びてきました。同国産丸太の輸出枠も伐採量全体の3割から2割に削減。
 - ・マレーシア産合板の日本向け輸出価格は急上昇。10～11月積みの価格は、6月成約価格の2割強の上げ幅。
 - ・南洋材が不可欠なのは型枠用合板。メランティという樹齢50年近い巨木は節が少なく育ち、強度に優れます。
 - ・日本国内で使う型枠用合板の年間使用量の9割強はマレーシア産とインドネシア産が中心の南洋材が占めます。型枠用の国産材使用は現状では3割が限界。
 - ・南洋材と比べ節のある国産の針葉樹は強度が劣ります。型枠に使う場合、平均10回程度使いまわせる南洋材合板に対し、針葉樹合板は5回程度で使えなくなることが多いようです。
- (2017年10月11日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

輸入普通合板 卸値が一段高 丸太伐採量増えず

- ・輸入普通合板の国内卸価格が一段と上昇。輸入の減少が背景。
 - ・厚さ2.3mmの普通合板は1か月前に比べ4%高くなっています。過去30年間で最高値圏。厚さ4mm、5.5mmはそれぞれ1か月前に比べて1%上がりました。
 - ・主産地マレーシアの伐採増税や環境規制で現地での丸太の伐採量が増えず、合板の国内在庫は低水準が続きます。
- (2017年10月17日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

南洋材丸太 2%高 対日 10月積み 原木供給減る

- ・南洋材丸太の10月積み対日輸出価格が小幅に上昇。9月積み比べて2%高。
 - ・産地の伐採規制などで原木供給が減っており、原料の確保を優先した日本側が値上げを受け入れました。
 - ・1~8月のマレーシア産丸太の輸入量は前年同期に比べて37%少なくなっています。
 - ・対日価格は6月積みからの5か月間で12%上がりました。
- (2017年10月19日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

針葉樹合板在庫 8.5%増 国産 9月末

- ・9月末の国産針葉樹合板の在庫は、前年同月に比べて8.5%多い105,326M3でした。前年同期を上回るのは2か月連続。生産量が262,876M3と同4.1%増えました。
- (2017年10月26日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

住宅用製材品 卸値 2%上昇 北米産丸太急騰で

- ・住宅の梁や柱に使う製材品の流通価格が上がりました。9月に比べて2%高。
 - ・米国での旺盛な需要や原木供給減の余波で、北米産丸太の日本向け輸出価格は急上昇。
 - ・集成材の平角も9月に比べ2%上昇。値上がりは2015年1月以来、2年9か月ぶり。
 - ・欧州メーカーのトラブルで輸入品が減り、国産の集成平角の品薄感が出ています。
- (2017年10月31日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

